

建築主：工藤 義幸  
 設計：丸山耕平建築設計事務所  
 施工：常陽建設株式会社（ASJつくばスタジオ）  
 所在地：流山市宮園

3世代同居をイメージした質の高い住宅

## 南流山の家



南側外観 木製格子が繊細な表情をつくる。国産材を積極的に使用。

流山市の南部に位置する敷地は、1970年代に区画整理・分譲された土地である。建替えが進む中でひととき存在感のある『木格子の塀とバルコニー』を持つ『南流山の家』である。南側道路に面した庭と2階のバルコニーからは陽が入り、一日中明るい開放感のある住まいである。

現在は若夫婦と幼い子供の3人の住まいだが、将来はお母様との3世代同居となることを前提に計画されている。

建物内部は、1階の中央リビングを挟むように小上がりで掘りごたつのダイニングと将来お母様の個室となる小上がりで畳敷の客間。リビング吹抜けに面して2階の2個室が配置されるシンプルな構成である。その各個室との境界を障子や格子建具とすることで、どこにいても家族の気配がわかるよう工夫されている。それは将来3世代の住まいとなったときも自由に『プライバシーの確保とコミュニケーションの誘発』が行えるようになっている。

また、小上がりや掘りごたつの段差は腰掛けるのに程良い高さとする事で、立ち座りを楽にすると共に建具等を開放しているときも空間をうまく仕切っていると感じた。加

えて、単純な空間構成の中であって、手に触れるところは綿密に計画され、丁寧に作られていることで、研ぎ澄まされた空気を感じることができる質の高い住宅である。

まだ現役であろうお母様が実際に同居するのはまだ先のこともかもしれないが、ここに住んでいる様子は容易にイメージすることができる。その時の事情で住居に多少手を入れることも想像できるが、それらを飲み込むことのできる力のあるユニバーサルな住まいである。

（藤本 香）



小上がりの客間(将来母親寝室)は、格子建具で仕切る。



リビング上部の吹抜を介して、家族の気配を感じる。

（撮影/益永 研司 nacasa&partners）